

平成 29 年度 第1回 松江市総合教育会議 会議録

日 時： 平成 29 年 7 月 19 日(水) 10:00～12:00

場 所： 松江市役所 本館 2 階 応接室

出席者： 松江市長 松浦正敬
松江市教育長 清水伸夫
松江市教育委員 多々納道子、櫻井照久、伊藤由紀夫、藤原 文
市立小中学校教諭 新田純子（乃木小学校 教諭 6 年生担任 6 年 生主任）
加藤 潮（川津小学校 主幹教諭 教務主任）
山岡史尚（湖東中学校 教諭 2 年生担任 野球部顧問）
小室容子（美保関中学校 教諭 2 年生担任）
市長部局 船木 忠 子育て事業部長、
教育委員会事務局 高橋良次 副教育長、古藤浩夫 副教育長、
杉谷 薫 教育委員会次長、池田 浩 教育総務課教育指導官、
三賀森卓司 学校教育課長、
仲田雅彦 教育総務課総務係長、糸賀昭雄 同・教職員係長

○古藤副教育長

みなさん、おはようございます。ただいまから、平成 29 年度第 1 回松江市総合教育会議を開催いたします。私は、全体の進行をさせていただきます、副教育長の古藤でございます。よろしくお願いいたします。

では、開催に先立ちまして、市長からご挨拶をいただきたいと思っております。

○松浦市長

みなさん、おはようございます。本日、今年度第 1 回の総合教育会議を開催いたしましたところ、皆さま大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

この総合教育会議でございますが、一昨年から設置をいたしまして、初年度が 3 回、2 年目となる昨年度は 2 回、開催をいたしました。子どもの貧困問題などについて、協議を行ってきたところでございます。

また、昨年は 4 校の小中学校を訪問させていただきました。子ども達の学習の様子、先生方の多忙感などの話も伺ったところでございます。

今日は、学校訪問でも拝見をいたしたところでございますが、教員の多忙化をテーマとさせていただきます。

4 月に発表されました文科省調査では、中学校教師の 57%、小学校教師の 37%の方々が、勤務時間が過労死ラインを上回るという結果も示されております。改めて教員の

働き方について考えていく必要があると思っております。今日は、現場の先生方にもお越しいただいて、多忙感がどういったところから来ているのか、そのようなお話をぜひ伺いして、意見交換をさせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○古藤副教育長

それでは、自己紹介をお願いするところでございますが、本日は時間の都合もございまして、お手元に座席表をお配りしております。それをもちまして自己紹介に代えさせていただきますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

それでは、この後の予定でございますが、テーマにつきましては、先ほど市長からもございました「教員の多忙化、業務の適正化」でございます。その中でも特に、教員の長時間勤務等について協議をお願いしたいと思っております。

本日の進め方ですが、お手元にレジメをご用意しておりますけれども、この後、事務局から昨今の国全体の動向につきまして、資料を基に簡単にご説明を申し上げます。その後、今日、学校から4名の先生にお越しいただいておりますので、小学校、中学校、それぞれの先生方から、現状について1人10分以内でご説明いただき、その後、委員の皆さま方からご質問等をいただきたいと思います。

その後、委員の皆様のご協議をお願いしたいと思います。協議の途中で引き続きもう少し聞いてみたい、この辺がどうなっているんだ、ということがございましたら、その都度、先生方、あるいは事務局の方に言っていただければ、お答えをしたいと思います。短い時間ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、事務局から昨今の動向について、簡単にご説明申し上げます。

○池田教育指導官

失礼します。教育総務課教育指導官の池田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日のテーマは「教員の多忙化、業務の適正化」としております。先ほど市長からもございましたように、学校の先生方の多忙感や多忙な状態については、ずいぶん前から話題に上っておりましたが、4月の発表、教員勤務実態調査の集計速報によって、さらに大きく取り上げられることになったと言っても良いかと思っております。この調査自体は、昨年の10月から11月にわたって抽出調査されたものでございます。中学校の教員の57%が過労死ラインと報道されましたことは記憶に新しいところかと思っております。

本日は、4名の先生方にお越しいただいておりますので、この説明の後には、ご自身の学校の勤務実態について現状を報告していただき、その後に質問等も交えながら、議論を深めていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

それではお手元の資料について、簡単ではございますがご説明を申し上げます。そもそも平成26年に、日本の先生方の長時間労働が話題になったのは、OECDの調査結果によるものでございました。34の国と地域の中で最も長時間働いているという結果でございました。これを機会に文部科学省も学校現場の業務の適正化について、取組を加

速化させておりました、その一部ではございますが、特別な作業班を設けて、昨年の6月に一定の方向を示したものが、お手元の資料1となっております。

お手元の資料1を開いていただきますと、骨組みとして4つの柱がございまして、その中には、部活動の指導などについても触れてございます。骨子等も添付しておりますので、必要に応じてご欄ください。

資料2についてでございます。資料2は、冒頭申しあげました4月に発表された調査結果のダイジェスト版を改めて作っております。57%、過労死ラインがずいぶん強調されましたけれども、1日の勤務時間の平均などを、平日、土日に分けて、10年前と比較しております。大きく取り上げられましたものは、裏面の分布図でございます。学校内で長時間勤務した先生方を、その勤務時間の多い方から積算しますと、中学校で57.7%、小学校で33.5%が、厚生労働省の示す過労死ライン、月に80時間以上の超過勤務としておりますが、これに相当するということを示したグラフでございます。実際には、グラフ上では、週の勤務時間が60時間以上というところで過労死ラインを引いております。

続いて資料3でございます。本日の会議の前に、担当課でも小中一校ずつに依頼しまして、勤務時間外に行われている業務について調査をしたものです。中学校では部活動がありますので、部活動の時間が高くなっておりますけれども、採点や成績処理、授業準備や後片付けなどの本来の教員の業務が勤務時間外に行われている業務の上位であるという点については、私どももやや意外な結果であったと考えております。

最後に資料4でございます。この資料につきましては、小学校中学校先生方の1週間の時間の割り振り、子ども達の時間割ではなく、先生方の1週間の時間の割り振りの一例を示した表です。色の濃い部分は、授業の割り振られていない時間を示しています。この後の報告や質問、協議の参考にしていただきたいと思います。

以上、雑駁ではありましたが、テーマ、進行、資料の説明とさせていただきます。

○古藤副教育長

この資料につきまして、何かご質問等ありましたら、お願いしたいと思っておりますがよろしいでしょうか。それでは、この後、先生方のご報告にあわせまして、ご質問等いただけたらと思っております。

では、早速ですけれども、先生方の学校での実態についてご報告をお願いしたいと思います。レジメにあります現状報告の順番から、乃木小学校、新田純子先生からお願いしたいと思います。

○新田教諭

はじめまして。松江市立乃木小学校の新田と申します。よろしくお願いたします。

私は今、松江市立乃木小学校で6年生を担当させていただいております。6年生5学級ありますけれども、そちらの学年主任という立場で勤務しております。今日は小学校の主に担任の立場で勤務状況についてお話させていただきたいと思っております。

私の勤務校の場合、勤務時間は午前8時20分から、午後4時50分。私自身も朝7時

半くらいには学校に出かけておまして、帰宅も午後9時前後になるのがほぼ毎日という状況です。そういう状況の同僚が多いのが現状です。小さい子どもさんがいる教員が大きな荷物を持ち帰って、家で仕事をして、また翌日、大きな荷物を持って学校に来るというのが現状です。

勤務の内容としまして、ただいま池田教育指導官からお示しがありました資料3に抽出校がありましたが、私の勤務校も同じような格好になっています。採点とか成績処理、授業の準備、片づけといった自分でできることは全て勤務時間外にやっているのが現状です。会議が入ってくることもありますし、昨今、個々の児童への対応が毎日のようにおきていて、それはなかなか事前に予測することはできませんので、その日その日でいろいろなことに対応していくと。すると自然と仕事が後に回っているという形です。

特に欠席が不登校につながるということ、欠席があれば必ず家庭連絡を取り、場合によっては家庭訪問をし、ということ、なかなかこれも家の方との連絡ということで時間内にはできませんので、保護者さんとの連絡が取れず、自宅に帰ってからまた連絡をし直すということになります。

それから続きまして実際の1日の勤務についてですが、これもさきほど時間割が資料4にありましたが、これに沿ってお伝えさせていただきます。

この5年生担任の場合うちの学校も良く似ております。1週間、29時間を持ち時間として授業をしております。29時間のうち26時間を担任が行っております。低学年になると総授業数は減りますけれども、やはり全ての授業を低学年は1人で行うということで、1人当たりの授業数はあまり変わらないと。

この時間割で行きますと、8時20分が勤務スタートということになっておりますが、この時刻から始めている者はほとんどおりませんで、だいたい児童が登校してくる7時50分頃には教室でその日の準備をしながら、子ども達を待ち受けるということです。学級朝礼中に、健康観察をして体調等を見ますけれども、やはり入ってきたときの子ども様子で、非常にその日の体調ですとか、ふだんと違うなど伝わってくるものですから、担任は極力その時間に待っていることになります。そうすると当然、その日に行う授業の準備とか、機器の用意ですとかは、それ以前に行わなければならないということで、大抵7時半頃には、うちの学校では職員が動いているということです。

また、職員で日直業務を月2回程度行っておりますけれども、鍵を開けて回るですとか、巡視であるとか、夏場にはプール管理もしますので、相当早い時間から学校には出かけているという状況にあります。

それから実際の1日に流れで見えていきますと、月曜日、水曜日、金曜日朝、職員朝礼時のところが空いておりますけれども、ここは子ども達の朝の読書活動ですとか、学力向上のための時間として、担任がついて指導をしております。

さきほど申しました個々の児童への配慮ということで、なかなか登校しづらい子どもさんがあったりですとか、理由がはっきりしない欠席があったりしますので、この時刻に職員室に降りて家庭連絡を取ったりということもやっています。

授業をやっけていまして、勤務時程表では2時間目と3時間目の間に15分程度の休憩がありますけれども、この時間は、朝、子どもたちが出しました宿題ですとか、諸々

の提出分を確認したりとか、それから先ほどのように朝の家庭連絡をした家庭には様子を見るためにもう一度連絡を取ってみるとか、職員室に何か連絡が入っていないか確認に降りたりとか、なかなか休憩は取れませんし、次の授業に準備があれば、そちらにも充てないといけないということで、座ることもなかなかできない状況です。

それから、給食後の昼休みに、これも同じく勤務時程表では30分休憩と設定されておりますけれども、先ほどのような提出物の確認ですとか行いましたり、児童とともにいろいろな活動をする時間になりますので、給食も担任は5分程度で終えて、あとは確認とか、勤務に動いているのが現状だと思っております。

この5年担任の場合、木曜日であれば、1時間目から6時間目まで全て担任が行いますけれども、2時間目に書写を行って、たくさんの用具、筆ですとか準備し、子どもの作品を整理した後に、3時間目には家庭科ということで、調理実習等がありますと、15分の休憩時間ではとても間に合わない、やはり朝のうちから準備しておかないとということで、秒を争って動いているという気持ちになっています。

下校時刻が午後3時55分と設定してありますけれども、月曜日はこのあと、時間一杯まで毎週、職員会議がありますし、火曜日から金曜日につきましても、大きな行事、市の陸上大会ですとか、学校行事がありますと、5時まで子どもたちとともに活動する。そういうものはありませんでも、さきほど申しました学力向上ですとか、個々の指導とかもあり、4時45分までは子どもがいることが多い、一緒に活動していることが多い、というふうになっています。それらすべてを済ませてから打合せですとか、翌日の授業の準備をします。この例の先生の場合ですと、金曜日の6時間の準備を、4時45分を超えてから一コマ一コマについて、授業の準備をする必要があるということになっています。

まず、授業に使用する資料等もたくさんありまして、私の勤める学校ではクラスが複数あるわけですので、共有したり、一緒に開発したりということをするわけですが、共有するには共通理解を図る時間が必要で、それはまた別の時間を設けるということになっています。

こうしてなかなか実際、平日に授業の準備が十分に出来ないもので、どうしても土曜日か日曜日のどちらかに出て、次の週の準備をしたりしているところです。また、修学旅行等がありますと、業者さんとの打ち合わせもこの空いた時間で行ったりします。加えて、県や市の研究会の仕事を請け負っている教員もおりますけれども、他校との連絡調整も取らないといけませんし。

本当に、毎日、つま先立ちで全速力で仕事をしていると、私達よく教員で話をしておりますが、そういった印象を持っております。学校規模とか、勤務年数とか、職員構成とか、学校によって違うと思いますが、以上、私の勤務校での様子を話させていただきました。ありがとうございました。

○古藤副教育長

ありがとうございました。続きまして、川津小学校の加藤先生お願いします。

○加藤主幹教諭

川津小学校の主幹教諭をしております加藤潮と申します。よろしくお願いいたします。新田教諭と重複するところもあろうかと思えますけれども、私の学校のこと、個人のこと含めてお話をさせていただきたいと思っております。

多忙化ということで、いくつか要因的なことを考えながら、お話をさせていただきたいと思っておりますが、まずは保護者の対応の時間ということであります。さきほど、新田教諭の方からもありましたけれども、教師を私30年くらいやっておりますが、昔と今と比べて保護者の方が学校に対して様々な要望、子どものことを思っていることなどは重々分かっているのですが、要望とか説明を求めて来られることが多くなっているかな、時には過度な要求のものもありますので、そうした場合、必ず学校は保護者に対して回答をしなくてはいけないということで、単独で判断できない場合は、管理職と一緒に打ち合わせの時間がどうしても必要になってくる。また、些細な怪我であっても保護者に連絡をすることを、今、普通に行っております。私が若かったころは、ここまでしていなかったなということ、今は当たり前に行っておかないと、その後の対応に困る場合があります。担任の先生はそれに凄く時間を取られて、さきほど話にあったとおり、給食は食べる暇もなく、子どもが食べている間にノートを書く時間に充てたり、特に1年生の担任の先生はよくある話なのですが、午前中、一度もトイレに行っていない。行く暇がない。教室を離れると、子どもたちが何をしているか分からない。それから、そういったノートに取られる時間がありますので、トイレに行けなかったという話をよく聞くことがあります。

それから連絡帳に保護者の方が書かれるのですが、家庭で判断できそうなことでも全て学校に問い合わせられる。例えば「ブランコで二人乗りをさせないようにしていただけませんか」と。昔はブランコで二人乗りしていたよな、ということとか、水泳のバディを組むのですが、「うちの子が組んでなくて悲しんで帰りました」と連絡帳にあつて。バディを組ませてやっているのですけれど。子どもの勘違いがあったのですけれど。といったことが多くなっている。それに一つ一つコメントを書いたり、電話を対応したりするといったことがありますので、特に担任の先生は非常にそれに時間を取られる。

子どもの対応です。これも近年、いろいろな問題をかかえる子どもさんが多く増えていることは実感しております。集団生活がうまくできなくて教室に入れない子、不登校傾向の子、トラブルが多く粗暴になりがちの子。私は担任をしておりますので、職員室で仕事をしていると必ずSOSが来ます。「誰それさんが暴れています」とか、「教室に入れないので手伝ってください。」と言われれば、すぐ駆けつけて、その分時間が取られていくというのが現状であります。

そうした場合も、放課後、子ども達が帰った後、子どもの対応について打ち合わせをしますので、実は昨日も一日かけて子どもの取材をして、今朝も子どもの話をして、今日は4時と6時に保護者と話をするということがあります。これが普通、珍しいことではなく、日常的に良くあることなんですけれども、そういった子どもに対する様々な問題行動に対処するということ。

先生方、特に担任の先生は常にトラブルがあると大丈夫だろうか、保護者から何か言

われた時に大丈夫だろうか、不安があるんですね。そういう実務的なこと以外の精神的な負担が多忙化に大きくつながっている部分ではないかなと思っております。

そうすると必然的に、ではいつ様々な残務処理をするかということ、打合せが終わった後の6時とか、遅い時間からようやく、さきほど池田指導官から説明のあった当たり前の業務を始める。家庭でお子さんをお持ちの女性の方は、学校で処理しきれないことを家庭に持ち帰られる。というような保護者の対応、子どもの対応に付随して様々な時間がかかってしまうということがあります。私も土日どちらか必ず、出たくはないですが、出ないとその次の週の仕事が追いつきませんので、そういったこともあります。

あと事務処理的なことで申し上げますと、以前無かったような事務処理が、対外的にも、校内的にも増えております。学力調査の自校採点ですとか、さまざまな分掌で予算決算、出さないといけないものもあります。体力テスト、特に分析を提出しないといけないとなると、必ず学年部で細かく打ち合わせをする。そして入力して出すというような時間がどうしても必要になってきております。大事なことだとは思いますが、事務処理的なことが、校内的なこと、校外的なこと、簡素化していけるといいのかなという気がしております。

それから、多忙感、多忙化を感じるのには、主に50代、40代後半でしょうか。本校の職員の年齢層が半分以上は50代。40代後半をふくめると6割です。30代は一人か二人。20代の先生は新採の方もおられますので多くはなっています。このようなアンバランスさがあるって、どうしても重要な職務、分掌というのは50代の先生の負担になってしまう。またあわせて、20代の若い先生の指導にも時間が取られてしまう。いたしかたない理由ではありますけれども、職員構成のバランスの悪さというの、一つ、先生方の負担というところでは感じる部分は持っております。

やっぱり、小学校というのは学級担任制ですので、さきほど新田教諭が言いましたけれども、1時間目から6時間目まで、朝、私も7時半には必ず出勤はしておりますし、ずっと朝から子どもたちが下校するまで付いています。ですので、なかなか空いた時間というのは生まれるわけではなく、そうした中で、業務をこなしたり、教材研究をしたり、いろいろなことを打合せするというのがありますので、小学校の場合は、朝からずっと一緒ということも特筆することかなと思っております。

以上、4、5点に分けてお話をさせていただきましたけれども、様々な要因、これが一番の要因だというものはございません。こういったものが常に絡み合いながら、様々な業務に支障をきたすようなことがあったり、精神的な負担になったり、ということが現状かなと思っております。

私の帰宅の時間、できるだけ早く、目標は5時半から6時に帰ること。誰よりも早く帰ろうとは思っておりますが、なかなかそうはいかない現実がありますけれども。8時、9時、当たり前に残る先生方もずいぶんおられるなあと感じているところです。

○古藤副教育長

ありがとうございました。小学校の報告2件でございましたが、小学校で特にご質問などございましたら。では、続いて中学校2件、報告をお願いします。はじめに、湖東

中学校、山岡先生お願いします。

○山岡教諭

湖東中学校、山岡と申します。よろしくお願いいたします。

中学校ですので、小学校との違いを述べながらで説明したいと思います。中学校は専門教科ですので、小学校のようにずっとそのクラスに付きっきりではないということが前提でございます。空いている時間に何をしているかということの説明させていただきたいと思います。

最初に池田指導官が説明された資料4に中学校3年生担任、男性教諭の一日の流れがありますので、そちらの方をご覧ください。これを参考に説明させていただきますと、朝、8時15分から職員朝礼が始まりますが、私は野球部の顧問をしておりますので、毎朝、朝練があります。朝練は、7時半から8時10分までの40分間を予定しています。もちろんそこから始まるとなると、子どもたちは15分前の7時15分くらいには鍵を取りに来ますので、7時前くらいからは準備をしている状況です。

もちろん朝練をするわけですので、子どもにつきっきりで指導をしているため、朝の時間に仕事をするのは難しいです。

そのまま職員朝礼があり、学級朝礼が始まり、授業になっていきますが、この(資料4の)3年生担任の先生は、29時間あるうちの21時間ですが、私は19時間ですので、1日に平均2時間程度空きがあります。空きの時間は、生活ノートを見たり、校務分掌の資料を作成したり、次の授業の準備をしたり、部活動の準備をしたりと、いろいろな仕事がありますが、それ以外にも、生徒対応があります。なかなか授業に入れない子ども達もいますので、その子一人一人の支援にあたっていくことになると、生活ノートを見る時間でさえ無くなります。そういう場合は、給食の時間を使って書いたりするのですが、なかなかゆっくり書くことが難しい現状です。

また、昼休みがありますが、昼休みの中に、給食の片づけの時間も入っていますので、その片づけが終わるまで、子どものそばにいて、一緒にやりながら、ということになります。そうすると、なかなか自分の時間というのは作ることができませんので、生活ノートを見るにしても、給食が終わるまでの間とところで見えています。

また、生徒指導の問題等が入ってきますと、その時間を活用して、別室に呼んで話をしたりだとか個々の対応、または、小テストの再テストだったりとかもありますので、本当にあるようでないような時間と言いますか、25分あるうちの5分程度の使える時間です。1日が終わって、終礼が4時10分となっているんですけども、そこから基本的に部活動に出ます。今、完全下校が7時です。平均すると4時から7時ですので、3時間程度です。朝の40分とその3時間は部活動につきっきりになってしまいますので、教材の研究であったりですとか、校務分掌の仕事であったりですとか、会の打ち合わせ等もいろいろあるんですけども、そういった仕事ができるのは夜7時を過ぎてからになります。その後、必然的に帰る時間は、9時、10時になってしまい、遅くなると11時、または日をまたいでしまうこともあります。もちろん要領の問題もあると思います。

私はまだ働き出して3年目で、これからだとは思いますが、顧問を持っている

先生方だとか、担任をしておられる先生方は個別の対応というところで、時間を取られるところもあります。先ほどの小学校の先生と重複する部分はあると思いますが、一日が終わった後に、保護者の方と連絡をこまめにとるということになっていますので、今日あったことで気になることがあれば連絡を取ったり、家庭訪問をしたりしています。一日一日であったことを、できる限り早い段階で連絡しようということによってやっております。もちろん、家庭のある方もありますので、そのような方は自宅に持ち帰って仕事ということもあります。小学校と大きく違うのは部活動という面ですので、もう少しお話しさせていただきますと、休み、土日、祝日というところでも部活動がありますので、実質、本当に休めるのは、「しまね家庭の日」が部活動も休みの日で確保されていますので、その1日だけとなります。その他は部活動の半日練習、一日練習、練習試合、大会といったこととなりますので、ほとんどの日で部活動があります。授業の準備や、校務分掌、いろいろな行事等の資料作成などが余裕をもってできないというところがあります。

もうひとつ、テスト前のテスト休みが部活動がなくなるので、そうした時間を有効に使えば、いろいろと仕事はかどると思いますけれども、そういった時間を狙って会議が入ったりだとか、出張で、小中一貫の取組で小学校の授業を見に行ったりだとかありますので、なかなかうまく時間を使うことも難しいです。結局、7時を過ぎて帰ることになってしまうことが多くなってしまいました。

最後に授業のことをお話しさせていただきますと、今、松江市から配置されている学力支援員さんが1名、TTとして参加をしております、普段、時間をかけられないところでも、プリントの丸付けであったりとか、提出物のチェックであったりするところで、いろいろと協力してもらっているところがあります。そういったところでは凄く助けられており、他のところに手を掛けられるところがあります。

基本的な拘束時間が長いといえますか、完全下校が7時までですので、自分の仕事を優先するよりは、まずは目の前にいる子どもの一人一人寄りそって対応することが基本となりますので、なかなか自分の時間をうまく使うことが難しい現状になっております。以上、簡単ではございますが報告を終わります。

○古藤副教育長

ありがとうございました。それでは、最後になりますが、美保関中学校の小室先生にお願いいたします。

○小室教諭

美保関中学校の小室と言います。よろしくお願いたします。

私は、本年度、松江二中から美保関中学校に異動してまいりました。二中の方は昨年は650名程度生徒がおりまして、学年部3年を担当しておりましたが、200人ちょっとの学年でした。今年は子どもの数がぐっと減りまして、71名ということで、学校の規模は小さくなっております。ただ、当たり前のことですが、教員の数も減りますので、私は国語を担当しておりますが、国語の教員は1名ということで、全て国語関係の仕事は一人で行っているような状況です。私はまだ美保関中学校のことは良く分からないので、

まだ、毎日いろいろと人に聞きながら仕事をするような状況で、学校によってもいろいろやり方も違いますので、慣れるまでは半人前のような状態なんですけれども、どこの学校でも共通なのは、やはり担任であれば、授業時数プラス1時間は最低でも生徒からの提出物をチェックするというので、先ほども言っておられましたけれども、生活ノートのチェック、それから、テスト期間に入りますと、メディア・コントロール・ウィークとかあるので、チェック表とか、勉強の仕方が分からないという声に応じて、計画表を作って計画表のチェックをし、学力向上、家庭学習の時間を増やすためにほとんどの学校が行っていると思うのですが、自主学习ノートや、勉強のチェックをしているので、毎日二つ、2種類くらいは最低でも見えていますし、試験前になると4種類とそういうふうに増えています。提出しない生徒の指導もしていますし、前の学校では全員が提出するまで終礼ができないというルールだったので、そういった子ども達に早くやるように対応をしたりしています。

担任としては、やりがいもあるのですが、やはり心配なのは、欠席をする生徒です。先ほども何回も出ていますが、休みがちだったり、保健室に、まず学校に来ているだろうかということ、大きな校舎ですと離れていますので、まず連絡を取るにしてもかなり移動して、電話のあるところまで行きますし、遅刻連絡が入ったか、入っていないければ生徒の安否の連絡をしますし、1時間目に授業が入っていると、連絡で授業に行くのが遅れたり、ぎりぎりになることもあります。

あと、学期によっても違うのですが、提出物の整理がかなり多くて、1学期だったら、健康保健関係の書類とか問診票とかも多いですし、PTAの行事の出欠の返事ですとか、家庭訪問を、本校も前の学校も4月末から5月にかけてやりましたので、すぐに準備をするということもあります。

あと、学年にもよりますが、3年でしたら進路関係の希望調査ですとか、テストごとにテスト成績の通知票を渡しますもので、それを出してはまた返してもらうという集配関係、また、夏休み前になりますと、オープンキャンパスとか、高校の説明会の申し込みなど、入試が近づくと今度は私立高校の説明会の希望申込みとか、ばらばらに、子どもの状況に応じていろいろなものが出てまいります。

2年生なら修学旅行関係の提出物がありますし、1年生ですと1学期は部活動を初めて始めますので、そのための購入品もありますし、それから、人間関係のトラブルとか、保護者からのいろいろな問い合わせも多くありますので、まず、学校に慣れるために、かなり気を使います。学年による差、シーズンによる差、いろいろあるんですけれども、小学校でもたぶんやってきて、今までずっと子ども達も経験してきたことなんですけれども、給食の準備も、掃除の準備、片づけ等も、全て事細かくルールがありまして、それをちゃんと子どもたちがやるようにいつも配慮しています。係の仕事も、ちゃんと個人的に名前を呼んで、「あなた、何々の当番だったよね。」とか、「どこの掃除場所だったよね。」とか、声をかけないと動かない子もいますし、「誰かやって。」では、やってくれないので、「何々さん、この仕事だからやろうね。」とか、今週は、誰が何の当番かを週の初めに確認をしたりもします。

月曜日は仕事が多くなったり、それを忘れていると給食の時間から昼休み時間に向け

てごたごたになってしまうとか、そういうこともありました。大規模校ですと、ひとつ何かが遅れると、給食を取りに行くのが遅れると、それを副担任の先生がコンテナ室で当番をしているので、そういった方達の動きも後ろに下がってしまって、人に迷惑をかけるということで、担任は、全体にかかわることは迷惑をかけないように、子どもたちに早く動くように、子どもらも、本当に時間が区切られていますので、その時間内に素早く行動することを求められています。ですから片付けなどでも、給食後5分でコンテナ室に持っていくというルールがあって、食べるのが遅い子は、自分で食べてそれを片付けにコンテナ室へ行くような生徒も、各校に一人か二人はいました。1人の行動が、全ての人の行動にかかわるという点では、大規模校は大変な面もありました。

それから、今の学校に来ましてからは、当たり前なことなんですけれども、私一人でたくさんの国語に関する業務をやることになりまして、去年は3年で5クラスをもって、子どもの数は170人くらいだったのですが、今年は、全員もって71人です。国語科には、付随してコンクールがたくさんありまして、書写関係のコンクールが年に数回、先日も締切があって作品を出してきたんですけども、夏休みになると、読書感想文のコンクール、まだ本校は校内文集が残っておりまして、冬休みから文集の入力とかそういった仕事もあります。生徒数が少ないもので、1冊の単価を下げるために、学校の方で入力をして、印刷業者さんに単価を下げてくださいということで、これからどうなることかと思うのですけれども。

いろいろ再テストということも出たのですけれども、国語とか、数学とか英語は、全校の基礎力テストというのが必ず入っていますので、そういったものの採点とか、テストも必ずありますので、今回初めて定期テストを三学年同時に作るということをやりました、ただでも「国語って大変だよな。」と他の教科から言われるのですけれども、本当にどうなることかと思いつつ問題も作りました。子どもたちも塾に通ってしまっていて、塾の方でも、何々先生のテストはこういう傾向だよとか、いろいろ情報を集めているので同じ問題も出せませんので、早め早めに先手を打って準備をしていかないといけないなと思って、夏休みにどれくらい準備ができるかと思うのですけれども、そういう先のことも考えていかないといけないなと思っています。それから、子どもたちが書く力、表現力ということも言われていますので、昨年もだったんですが、必ず書く活動を入れていました、そうすると、それを170人分読んで、評価して返すということが、本当に難行苦行と言いますか、直さないといけない人とか、悪い点しかつけられなくてごめんねという人、こちらの指導力も足りないなということも毎日見せつけられますので、なかなか辛いものがありますけれども、やはり、書くことも重視したい、漢字テストも毎日採点して返すということもしますと、毎日、授業が週に4回か3回なんですけれども、そこに向けて準備していく、あるいは、次の計画を立てるということは、なかなか私も何十年も教員やっているんですけれども、苦しいことでした。

国語は評価の観点も5観点あって、他の教科よりも多いので、チェックしながら公平に、子どもたちになぜこのような評価なのか、特に国語は勉強の仕方が分からないという子が多いので、明快になるようなことを考えていますので、時間が許せば、いくらでも時間をかけてあげたいんですけれども、あまり長く家を空けると家の方も大変になって

いくので、その辺も調整もしながらやっているところです。

常に何か子どものことを心配したり、何かを気にかけていたりという状態で、やる仕事は尽きないなという状況でした。

○古藤副教育長

ありがとうございました。4人の方から学校現場の報告、情報提供をしていただきました。委員の皆様方、何かご質問がありましたら先にいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○伊藤委員

中学校のお二人の先生に聞きたいのですが、学校を視察させてもらったりすると、ほとんど先生が職員室にいらっしゃらない状況があった。資料にあるような空き時間があれば、教室を飛び出るような生徒さんや、学力の進み具合の遅い生徒さんに対応されている。教頭先生にお伺いすると空いている教員はおりませんと。空いていれば応援に全員が行きますというお話を聞いたことがありますが、この資料4にある1日に1時間、2時間でも取ればいいのですが、なかなかそういう状況は難しいじゃないかなと思って、お二人のお話の学校の様子を聞かせていただけたらと思います。

○古藤副教育長

なかなか空き時間が空き時間になっていないんじゃないかというお話でしたが、補足があればどうぞ。

○山岡教諭

TTと言って、例えば体育の教員が音楽や美術の授業にサポートに入ることがあります。また、学力差の関係から30人程度の生徒を見切るのが難しいところがあり、学力の差のある両方の生徒をどう伸ばしたらいいか考えた時に、なかなか授業を一定のレベルだけでやってしまうと、下の子の支援が行き届かなくなり、それに対応できないその子たちは、授業が耐えられなくなって抜け出してしまふ。空いた先生がそこについて行って、一緒に勉強してあげたり、または、話を聞いてあげたり、ケアをしてあげたりといった対応があるので、どうしても授業以外の時間が取られるということはありません。

○小室教諭

教室から出たりする生徒さんは、今いけませんので、そうした心配は無いのですが、私が図書館の司書教諭をしていますので、生活ノートを見たら今度は図書館に行って、司書さんと打合せをさせていただいたり、図書館に行って、図書指導などに時間をあてせてもらっています。

他校では、部屋が足りなくなってしまつて、不登校傾向のある子どもさんのために用意してある部屋が二つ三つあるんですけども、傾向の違う生徒さんが教室にあげられないということになると、また別のところに来てもらうと。例えば2時間くらいはそこ

でいて帰ろうとか、給食までいて帰ろうとかになると、学年教員が必ず付かないといけないので、その時は、担任はかなり生活ノートなどあるので保護されていて、副担任の先生とか、男の先生必ず来てくださいますとかはあります。

小規模校だと、出張を一人すると、必ず誰かが授業に入らないといけないので、出張が同じ日に重なったりすると、無理やり時間割を入れているという感じです。

○松浦市長

私も行政を長くやってきているので、今の話を聞いていると、一番違うのは、チームで仕事をするやり方と、先生方の場合は、どちらかと言うと個人個人でそれぞれ担任があったりして、何もかも自分達がやらないといけない、そういう気持ちが非常に強いと感じました。それで精神的な負担とおっしゃっているんじゃないかなと思いますけれども。そこは例えば学校の中で、組織的に対応する工夫はできないものなのか、1人にされてしまう、自分でやらなければいけないと思えば精神的な負担というのはどんどん高まってくると思いますが、何か少しでも解消できることができないものなのか。そういうことを聞いていて思ったのですが。

決まったような仕事は、自分でその日の段取りを書いてみれば、ある程度、計画的に物事が進むと思うのですが、誰かがおっしゃったように、1人、問題行動をおこした子どもさんがいたり、親御さんから連絡が来たりということになると、そこに時間を取られてしまって、最初に考えていた段取りが全然できなくなってしまうと。そういう話になるので、みんなで支援をしながらやっていくやり方ができないものなのか。私も素人なので分かりませんが、どうなのでしょう。

○加藤主幹教諭

矢面に立つのはどうしても担任ですが、担任をサポートするという点では、常にチームで動いています。生徒指導部、管理職がいたり、学年主任、養護教諭、それから市から派遣していただいている「子どもと親の相談員」やカウンセラー、様々な方がいらっしゃるので、何かあったらチームで相談しサポートはします。

ただ、それを何かを作って保護者に伝えるというのは、どうしても担任とういうことになりますので。サポート的には組織をあげてやっておりますが、どうしても担任の負担というのは多くなってしまうのかな。担任に変わって教頭が対応する場合ももちろんありますが、担任が主となります。そこをうまく児童生徒対応、保護者対応を担任に変わってという部分は難しいのかなと思います。

○松浦市長

一般的な組織だと、そういうことを引き受けるのは管理職だったり、ある程度経験を積んだ人がきちんとやってあげると。矢面に立つというのはきついですがね。管理職として対応したりとか、その方がかえってスムーズに行ったりするのではないかなと思うのですが。保護者からは担任を求められるかもしれませんが。

○加藤主幹教諭

会議は私も参加しますし、校長、教頭も参加しますし、電話対応は担任ではない場合もありますし。ただ、どうしても最初は、保護者との連絡は担任になりがちです。サポートはしているつもりですが、担任の先生は（管理職等に）任せれば良いというわけにもいきませんので、ご自分で抱えられるのはあるかなと思います。

○松浦市長

その辺りですね。精神的な面での負担感というのがやはりあるので。そこを何とか救ってあげるとか。イレギュラーなことへの対応が出てくると、やらないといけないことがあるのに出来なくなるという意味でのイライラ感も出てくる。きちんとサポートする、救ってあげるシステムができると非常に良いと思いますね。

○新田教諭

大きなことになると管理職にお願いし、チームで対応することもあります。日々の些細なことについては担任が声をかけています。先ほどから学校に来にくい子の話もあり、その子たちにも言えることですが、ほかの子どもたちの場合もつなげているのは担任であり、やはり連絡は担任が取らないとその子とつながっていけないということがあります。管理職に入ってくださいということもありますが、やはり担任が対応する機会が多いかなと思います。ただ、以前に比べると「チームで取り組みましょう」ということは学校でも心がけて動いておりますが、一方その分「チームでどうしましょう」と共通理解を図る場は必要になってくる現状です。

○松浦市長

この度、松江市でも弁護士を職員として採用しまして、この秋にも1名採用し2名となる予定です。何もないときは一般的な事務をやらせますが、トラブルだとか法的な対応があった場合にはその弁護士を活用しようと思っています。そういう者も是非活用してもらって、複雑に入り組んだ、あるいは感情的な事案でも、弁護士が法的な立場で判断することも大事なことだと思います。

○櫻井委員

非常に業務が多忙で、生徒との一対一での対応など、非常に重要であると思いますが、現在 ICT を活用した、例えばデータの分析であるとか生徒一人ひとりの情報管理であるとか、これは必ずしも学校現場に馴染まないかもしれませんが。私は医者ですので、医療の現場でもそうした ICT を活用して電子カルテや、院内だけでなく地域との情報ネットワークなど、島根県では「まめなかネット」というものがありますが、そういうものを使いながらできるだけ業務の効率化が図れると良いと思います。

松江市教育委員会では校務支援システム（不明瞭）その辺りの成績の管理であるとか、お互いの先生方の連携であるとか、ICT を活用できると良いと思いますが、現状はいかがでしょう。

○加藤主幹教諭

校務支援システムは今年度から稼働する部分もありますが、まだまだ未稼働な部分が多いです。また、市内小中学校の教員にそれを駆使して使えるまでの浸透はまだまだできていないというのが現状です。具体的に言いますと、出席簿は本校は校務支援システムを使って管理しています。それ以外のものはまだまだ稼働は難しいです。

○櫻井委員

将来的な導入への見通しはどうか。

○加藤主幹教諭

システムを使うのはパソコンです。そうすると、先ほども申し上げましたが 50 代後半の先生方は、パソコンというだけで一歩引く部分があります。これは本人の研修の問題でもあると思いますが、まだ「馴染みにくい」という先入観はあると思います。これがうまく稼働して駆使できるようになれば、他の市内の学校に転勤した場合でも業務がスムーズにいくと思いますが、そこにいくまではまだ時間がかかるかなと実感しています。

○新田教諭

本校でこの間初めて校務支援システムを使って通信表をつい先日仕上げましたが、やはり今言われたようにまだ仕組みがよく分からなくて、これについて研修が必要かなと思います。また、これまでですと、よろしくないですが持ち帰って通信表に書いて打ち出していたものが、学校でしか作業ができません。先週も 21 時 22 時まで残ってみんながパソコンに向かうという状況でした。

また、印刷で出しますが、なかなか機器も数が少なく自分の番が回って来ず「まだ印刷できません」と言って残っていたりということもありました。言われるように、軌道に乗ってくると非常に有効かと思いますが、そこまでは至っておらず、今回は非常に苦労しました。

○清水教育長

システムの的に全て稼働するのは来年ですか。

○三賀森学校教育課長

来年の 4 月から全校で稼働ができるように準備を進めています。校務支援システムを導入するのは先生方の多忙感を少しでも解消するのが目的ですので、成績の処理にしてもできるだけ単純に、コピーしたものを提出できて労力を少なくするように取り組んでいるところですが、今加藤先生がおっしゃったように、まずシステムに慣れていくことに時間がかかるということは、いろんな質問の中を見ても感じるところです。

最初の流れをマスターしていけば、今より事務処理については多少なりとも労力が無くなるかもしれませんが、ただそれ以外の部分の多忙感というのはかなりありますので、そ

れについては校務支援システムや ICT の活用だけでは対応できないと思います。

○櫻井委員

副担任の先生は必ず教室に一人いるのですか。

○古藤副教育長

副担任制度は、各学級に必ず一人ということではなく、1 名ついている学校もあれば、2 クラスとか3 クラスに1 名という学校もあります。

○櫻井委員

副担任の先生がそういう事務的なことをしてくれるというのではないわけですか。

○古藤副教育長

現状はどうですか。

○小室教諭

二中では、副担任が数字入れや、機械的に係名、表彰関係を入れて、担任が所見や行動の記録を入れるという分担をしていました。一人で2 クラス持っている者は2 クラス入れたりしていました。副担任になると大きな校務分掌を抱えている方もけっこう多かったり、部活の主顧問だったりすることも多いです。あるいは学年主任だったり。全員ができるわけではないので、そのあたりはうまく手分けをしてやっていました。

○松浦市長

学校事務職員がいますよね。あの方々はこういった事務処理はしないのですか。

○加藤主幹教諭

ある意味事務の方は担任より多忙かもしれません。多くの学校では一人しかいないため、その方に学級会計のことですとか PTA のこと、学校全体のこと、様々なお金に関することを一手に引き受けてもらっています。また、学校の児童名簿、生徒名簿の関係なども持っていていただいていますので、事務の方には頭が下がる思いでいます。

○松浦市長

忙しいわけですね。

○加藤主幹教諭

プラスアルファにお願いはし難いですね。

○新田教諭

給食費の徴収管理システムを導入していただき、担任が頑張ってやっていたのですが結

局なかなか難しく、今は事務の方が一手に引き受けてやっています。

○伊藤委員

私は学校事務職員未配置校の教頭をしたことがあります。給与計算や旅費計算、大規模校で何十人の先生方が出張する度に全て計算し、教育事務所とのやり取りなども大変だと思います。なかなか学校事務職員の仕事は大変であるという状況があります。

○櫻井委員

先ほど部活のことを山岡先生がおっしゃっていましたが、朝早くから放課後遅くまでというのは、それは毎日ですか。

○山岡教諭

そうですね。週に一回は休みを取ろうと思っており、月曜日だったりしますが、それ以外の日は基本的に毎日朝練をし、放課後練習というようにしています。

○櫻井委員

地域で応援してくださる方はいらっしゃるのですか。

○山岡教諭

休日等に練習を見に来られて、一緒に見ていただくことがあったりしますが、なかなかそれが毎回ということではないです。こちらがお願いすることもできないです。

○櫻井委員

それはボランティアですか。

○山岡教諭

ボランティアですね。

○松浦市長

文科省はそれを委託するとか、そういうことを検討しているのですか。

○山岡教諭

湖東中ですと、女子バスケ部、テニス部、昨年まで女子バレー部が、外部コーチに指導等をしていただいています。専門でない先生や新しくなった先生の所に配属されたりしますが、そことの連携も必要になります。部活動は学校とは切り離せないものだと私自身感じていまして、勉強で学校に来なくなったりだとか、こちらを振り向かせることができないときに、部活動の時間を使って信頼関係を築いたりだとか、学級で見せる姿と違う面を見てあげたりだとか、つながりをつくっていく面では教員も入っていかなければいけない面もあると思いますので、外部コーチに依頼することは助かることではありますが、そこ

ばかりにお願いするものなかなか難しい部分があると思います。

○松浦市長

でも小学校はやめましたよね。

○加藤主幹教諭

やめてはいますが地域で教えています。

○松浦市長

スポ少ですよ。

○加藤主幹教諭

結局土日は地域の子どものための練習の指導に充てています。

○松浦市長

ただ、学校の先生の関わりはないわけですよ。

○加藤主幹教諭

そうですね。

○松浦市長

あれだけ割り切れるなら中学校でも割り切ろうと思えばできるのではないですかね。

我々も小学校の部活を復活させようと思って大分いろいろやったのですが、やはり難しいですね。いったんやめてしまふとなかなか、こういう状態の中でもう一度というのは。

○多々納委員

4人の先生方の日々の状況をお聞きして、数字の上で過労死以上の先生が中学校では50%以上、小学校では30%以上という、それをまさに裏付けていると思いました。学校の先生方のお仕事は子どもたちの生活を丸抱えということもありますが、やはり一番は授業であります。そこが求められており、加えて生活をしっかり支えていくということだと思います。

市教委としてどういうサポートができるかということ、校務支援システムを実験的に導入したばかりなので、お聞きすると十分に機能していないようですが、これが少しずつ先生方にも慣れていただいて、教育委員会としてもサポートできるようなことを考えていけたらなと思っています。事務的には、今後少しずつ楽になっていただけるのではないかと思います。

教科の指導についても、山岡先生のお話だと学力向上支援員の先生とTTで授業面や成績の処理、点数付けでもすごく役に立っているとおっしゃっていたので、市教委として学力支援員や生徒指導の関係とかいろいろな方を配置していると思いますので、そういう

方々とうまく連携していただくと、良い指導と言いますか、もっと楽に指導していただけたらと思います。教科指導の準備だとか、本来は学校でやるべきことを時間外に家庭でやっているということで、時間内にできるようにしないとなかなか先生方も十分な指導ができないのではないかと思います。そのためにこんなことが更に必要だということがあれば少しお聞かせいただければと思います。中学校では部活の指導員をどうするかということもなんでしょうが、部活の指導によって生徒との関係を作る、個々の生徒の実態を教員が十分把握していると教科指導の方もうまくいくということもあるかもしれません。しかし、今のお話を聞いていると先生自身の生活がないのではないかと、そういう中で「先生頑張ってほしい」というのは、私たちこれ以上言えないという気持ちにもなりますので、もっとこういうサポートをしてもらえたらなということがもしあればお聞かせいただければと思います。

○古藤副教育長

ではまず一人ひとりお聞かせいただき、その後皆さんでご協議いただければと思います。

○山岡教諭

先ほども申し上げましたが、学習支援員に教科の面でサポートしていただくとか、副担任の先生に事務的なことを協力していただくとかもあります。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、クラスサポートティーチャーなどいろいろな支援員がおられますので、そういった支援員を活用してというところも実際にはありますし、更に充実していただくとお良いかなと思います。

部活動に関しては、なかなか難しいかなと思いますが、副顧問と協力していくことが大前提であるかなと思います。主顧問だけで見ているというのが実情でもありますので、もちろん副顧問と2人3人で協力していることもありますが、専門の先生だけではないのでなかなか現実には厳しいかなと思います。

○多々納委員

先生ご自身は野球の経験がおありですか。

○山岡教諭

私はソフトボールをしていました。

○多々納委員

では少しは経験があるのですね。全くそういった経験が無い方がしないといけないケースもあるのですか。

○山岡教諭

そういう部活もあります。ただ、先ほど言われた外部指導者に教えていただいています。

○藤原委員

経験の無い先生のところには必ず入っていただいているのですか。

○山岡教諭

いえ、それもうまくお願いが通って、向こうの方も承諾していただいた場合のみだと思います。

○古藤副教育長

むしろ稀だとお考えいただければと思います。

○藤原委員

経験の無い先生は、まずその競技を勉強するところからになるのですね。

○古藤副教育長

そうなると思います。

○小室教諭

私も副顧問で野球をみていますが、どうしても危険なスポーツですので、必ず教員がついていて、万が一怪我などしたときにすぐ出られるように必ずいないといけないということで、主顧問がいないときは副顧問が出るようにしています。あと、練習試合のときは、移動の際どうしても保護者輸送になりますが、皆さんお仕事もあるので台数が足りないと、いろんな荷物を積んで一緒に行くということで、特にシーズンなどは副顧問でもけっこうみんな動いたりしています。

あと、中学校は特に専門性の高い教科担任なので、苦手なことも指導しないといけないのが大変になります。例えば総合的な学習になりますと、みんなで横断的ないろいろな活動をしなくてはなりません。例えば福祉教育とかふるさと教育、環境教育とかいろいろなことを取り入れたりしていますので、その企画とか運営も慣れていなかったりするとなかなか大変です。今はもう始まって20年近くになるので、大分どこの学校もカリキュラムが定まってきていますが、更に良いものをとると、そういったことを専門に学んでいる教員が担当でしたり、今度道徳が教科化されると、道徳の方も専門性の高い教員が学校に配置されるとか、そういったことがないとなかなか大変ではないかと感じます。今人権教育の指導は社会科教員が主として担当していますが、やはりいろいろな何々教育というのが入っていますので、教科に結びつけて専門性の高い教員を配置していただくと良いかなと思います。

○加藤主幹教諭

夢のような話ですが、事務的なことはこの人に任せれば全部やってくれる、保護者と何かあったらこの人とという、そういった人の配置、担任は授業にほぼ100%に近い状態で専念ができるように、周りのことはこの人にお願いすれば良いということが万が一でき

ばと思っています。

もう一つは、行事を思い切ってやめることかなと思います。教員の悪い癖で、新しいことはどんどん入りますが、今までやってきたものをやめれば良いのに「あれも良かったから続けようよ」と増える一方です。子どものために何が必要かというのを考えて、バサッと切っていくことが、学校もそうですし、行政もそうですし、小体連中体連みみたいな組織もそうですし、削れるものを削っていかないと増える一方かなという気がしています。

○新田教諭

私も夢みたいな話ですが、持ち授業の種類がもう少し少ないと良いなと思うことはあります。私も得意不得意ありますし、小学校の場合、1年生担任をした次の年度に6年生担任ということもありますし、教科指導の勉強も難しいです。指導書を使って勉強させていただいているのですが、うちの学校の場合、学年に一冊しかないとか、5クラスあると「今誰が持っているの」「コピー取らせて」というようなことも実際起きています。

あと、ICT という話もありましたが、機器も数が限られていますので、「今日うちのクラスで使うよ」ということになれば「じゃあその時間無理だね」ということもあったり、子どもの数に合わせてですがもう少し数があると助かるなと思っています。

それから、年度末になると「もう印刷のインク代がありませんから何とか調整してやってください」と言われたり、そういったところを多少何とかしていただけると良いかなと思います。

○清水教育長

小学校の英語が教科化されますよね。来年度から先行実施で松江市もその予定ですが、特に小学校の先生方はどういう思いでしょうか。私は非常に、特に現場の先生方にとっては厳しい状況だろうと思っています。小学校の場合はそういう科目がなかったわけですから。先生方の率直な思いをお聞かせいただければと思います。

○加藤主幹教諭

2点ありまして、まず、個人的に出雲弁は得意ですが英語は喋れないため、担任で教えるとなったときに非常に不安はあります。もう一つは、教務主任をしておりますので、時数の確保の点についても難しい部分があります。それを導入することによって、どこかの時間を削除すると、その分業務に必ず支障がきますので、先ほどの話ではないですが業務がまた増えるのかなというのが率直な感想です。

○清水教育長

大方の先生方はやはり不安を感じていらっしゃるのですか。

○加藤主幹教諭

そうですね。自分は喋れないのに英語を教えるのかという思いはあります。ただ、実際はテキストを通して日本語英語を教えています、「私に教わってかわいそうだな」とい

う思いで教えている方は多いと思います。

○清水教育長

新田先生はいかがですか。

○新田教諭

今、ALTに入っただいただいていますが、大変助かっています。ただ、個人差がそれぞれありまして、それを楽しんでいる教員もいますが、そういう方に聞きながらやっている現状があります。嘘を教えるはいけないという思いはありますね。特に小学生は耳が良いので。

○清水教育長

それから、研修が県や市でいろいろありますよね。研修に対する負担感はどうですか。

○古藤副教育長

小学校英語に関する研修ですか。

○清水教育長

いえ、一般的な研修です。研修が負担になっているということがありますか。

○加藤主幹教諭

個人的には無いに越したことはないと思っています。悉皆研修（※経験年数や職務に応じて受ける研修）は当然行かなければいけませんし、あと、自分のスキルアップのために希望してというものはあります。そういう部分で、自分のスキルアップの研修は負担に思うことは無いと思いますが、どうしても長期休業でない平日普段の日に一日拘束、最近では半日になっているものも多いですが、そこが空くことによって補充をする、中学校の場合は補充教員を付けますし、小学校の場合も一定期間経過すると教員を付けますので、そういったことで周りにも、それが一日なら良いですが、それが2、3日にわたるような長期の研修・出張になると厳しいかなと感じています。

○清水教育長

それからもう一点、休暇の取得ですが、皆さん方はどうですか。取れていますか。例えば昨年度の取得状況はいかがですか。

○小室教諭

4、5日取らせていただきました。夏休みは取りたくてもなかなか取りにくいです。

○山岡教諭

体調を崩してしまったときに一回休みました。あとは年末年始ですね。

○加藤主幹教諭

年末年始が中心ですね。

○清水教育長

夏休みは取れますか。

○加藤主幹教諭

取るようにはしています。日数はあまり覚えていないですね。休暇願簿をあまり書かないので。

○新田教諭

幸い体も丈夫なので、あまり自分のことでは取らないですが、2日くらい取らせていただきました。夏は夏季休暇がありますが、教員は夏休み中しか取れないため、その4日をいただくとあとはあまり使える日が無いですね。

○清水教育長

松江市（行政）では長期休暇を取るようというところもありますが、3、4日連続で取れるような状況ではないですか。

○加藤主幹教諭

お盆くらいですかね。

○清水教育長

しかし、誰もが休むということにはならないですよ。

○加藤主幹教諭

私は15日が日直なので取れませんが、ただ、お盆にまとめて取られる方は多いですね。

○清水教育長

全国的に盆を中心に、3、4日全員で休もうという機運が出てきていまして、私も良いことだなと思っています。一般的には誰かが学校に出ていますよね。そうした休暇の検討も必要かなと思います。

○小室教諭

全国大会が無ければできるかなと思います。

○清水教育長

お盆にあてられることがあるのですか。

○小室教諭

20日頃に全国大会があると、出場する学校の方は休みを全然取られません。

○松浦市長

とても真面目なのですね。

先ほどの日直というのは何をやっているのですか。

○加藤主幹教諭

主に電話対応や来校者対応ですね。

○松浦市長

それは休みの日、お盆でも来ることがあるのですか。

○加藤主幹教諭

私は、来校者があまりないためお盆に日直することが好きです。ただ、何かあったときのために誰かがいないといけません。お盆や年末年始以外の日直の場合は、業者の方や保護者の方からの連絡は頻繁にあります。また、そこに向けて、例えば学年主任が日直していれば部会等会議をすることも多いですね。

○松浦市長

閉庁した方がすっきりして良いかもしれませんね。

○伊藤委員

今の現実には行政的で、市長部局が完全閉庁すると教育委員会も同様にできると思いますが、行政的にお叱りを受ける時代ですので、その辺りもあり学校も遠慮がちなのではないですかね。

○清水教育長

やるとしたら行政主導でやるのでしょうかね。

○伊藤委員

きちんと行政から言ってあげないと。

○古藤副教育長

時間も少なくなってきましたが、今後の松江市のこうした教員の多忙化、長時間労働減少のためにどのようなことをすれば良いのか、意見交換等お願いしたいと思いますが、もし何か質問等ありましたら引き続きお受けいたします。

○伊藤委員

ちょうど中学校の野球の県大会へ松江市から4校出場すると記事がありました。こうした中体連の大会があったり、野球の指導だけでなく、部活の指導は大変だろうと思います。また、専門の経験をしたことが無い方が一から勉強しながら指導するということになる、大変なことと思います。

以前、先生方との話し合いの場に行ったときに、多忙と多忙感は違いますという先生がおられました。事務上の提出物が多すぎるとか、やはり「多忙」にはなっていますが、では「多忙感」は何かというと、先生方の授業の際、生徒がうまく反応してくれたときに「夜遅くまで準備した成果が授業で出て今日は良かったな」と、これが多忙感です。何か満足感が味わえるものとおっしゃっていました。

市長がおっしゃったように割り切ったらどうか、ということもありますが、部活動は県大会など大会が連綿とつながっていますよね。よそがやるとなるとなかなか休むのは難しく、「〇〇中は休んでいるから弱いのだ」ということになります。ただ、思い切って週に一回で良いので「水曜日は部活動をやめましょう、そのときに授業研究をしましょう」と。そしてそれによって明日の授業に備えた満足感が味わえるような、週一日の休みを思い切ってやっても良いのではないかと思います。

○多々納委員

関連して、一週間のうち、一日は休みがあるとのことでしたが、土日は練習なのでよね。土日も少なくともどちらか一日は休むべきではないですかね。

○山岡教諭

市総体など大きい大会が終わった後は、週2回休みにしていたときもありましたが、どうしても保護者会など集まったときに、「休みすぎだ」という声もありました。

○多々納委員

保護者からの要望があるのですね。

○山岡教諭

先ほどもありましたが、そうした要望の方が多いですね。

○多々納委員

そうすると、個々の先生方ではなかなか難しいので、やはり教育委員会の方針として「週末は休む」とか「せめて一日は休む」というのが必要かなと思います。部活を通して生徒を知るというのも大事かと思いますが、伊藤先生もおっしゃったようにやはり授業が大切ですので、授業を準備する時間が先生方にほとんどなく、時間外でやっと思えるという状況は普通ではないと思います。

○松浦市長

例えば小規模な中学校では子どもが集まらないので部活が成立しないということは無いのですか。

○山岡教諭

湖東中学校は現在 1、2 年生で 8 人しかおらず、チームが成り立たないところです。

○松浦市長

それでもやるのですか。

○山岡教諭

美術部の子が手伝ってくれることが決まったので、やっと 9 人揃い中体連の大会に出られるようにはなりました。その子たちが中学校だけで野球を終えずに、今後高校に進学しても野球をやるということになると、やはりそこまでかけてみてあげることが今できることかなと思っています。

○古藤副教育長

現在、中体連では合同チームを認めていまして、2、3 校で 1 チームつくることが可能になっています。高校野球でもそういったチームがあります。ただ、合同練習をするという物理的な問題がありますので、合同チームは認められていますが、練習の面では不利なことがたくさんあります。

○松浦市長

結局、中体連につながっているからみんな頑張るのですね。何となく本末転倒な気もしますが。スポ少とはどういう関係になるのですか。

○加藤主幹教諭

中学校にスポ少は無いです。野球の場合は、中体連の野球の組織と、全くそれとは別の硬式関係のチーム・団体があり、中学校の部活には入っていないがそちらに入っているという子もいます。サッカーの場合も同様です。小学校の場合は部活動が無くなりスポ少になっていますので、自分が住んでいる地域外のチームに入っている子どもたちも多いです。

○松浦市長

どこかで割り切らないとなかなかできないですよ。

○清水教育長

小学校は指針を作りました。中学校も実は校長会から何らかの指針を作ってほしいという要望がありますので、できれば今年度中に、教育委員会として新たに何らかの部活動の指針、練習時間などの目安を作ろうと思っています。そのときはまたお願いをさせていただきたい。

○松浦市長

私がこんなことを言っているのか分かりませんが、先生方はこうした多忙感を持ちながらも言われるとやらざるを得ないと、そういう感じで仕事をしているのですかね。

○加藤主幹教諭

使命感や子どもたちが育ってくれているという充実感はもちろんあります。一方で、最初の話にあったように理不尽な要望があるとそれに答えないといけないということに対してプレッシャーを感じる方もいらっしゃるし、それを多忙と感じる方もいらっしゃいます。言われたからやっているという感じではないですね。

○松浦市長

もう少し自己主張すれば、例えば保護者の方とのトラブルとかに対してもある程度毅然と対応できるような気もしますが、何もかも抱え込んでしまうような、自分に責任があるみたいな感じがあるような気がします。

○加藤主幹教諭

そういう保護者が多いわけではないですけども。

○松浦市長

でも時間が割かれるわけですね。

○加藤主幹教諭

そういった「保護者対応はこの人に任せる」ということができれば良いですけども。毅然として言いたいところもありますがなかなか言えません。その後も人間関係がありますので。例えば学期始まったばかりだと残り10ヵ月以上その保護者や子どもたちと付き合っていかなければなりません。何とか妥協点を見出してうまく人間関係を保ちながらということになると、「あなたの言うことは全然違いますよ」と毅然とした態度だけでは難しい部分があると思います。

○櫻井委員

2週間前、あるテレビ番組で、先生方の多忙化ということである一人の女性の先生に密着していたが、非常に忙しく、朝の用意から始まって夜遅くまで仕事する模様をやっていました。国からデータも示されたり、一般の人にも先生方の忙しさが少しずつ浸透してきたと思います。私は医師ですが、医師の場合でも、特に急性期病院等の多忙な業務、朝から熱があるのに夜来て医者を起こすなど、こういうことはやめようと、住民の皆さんにもPRしてきました。そうすると最初はかかりつけ医の先生で、かかりつけ医の先生の紹介から急性期の先生と流れが大分できてきました。先ほどいろいろなお話を聞き、「先生方が非常に忙しい」と、今日はマスコミの方も来ていますが、ある程度一般の人、保護者の

方にも理解してもらうことが大事ではないかと思えます。何でもかんでもわがままを聞くのではなく、保護者で解決しなければならないものは保護者で解決し、地域で解決しなければならないものは地域で解決し、先生方の業務をできるだけ少なくしてあげようということを、我々住民の立場でもう少し考えていく必要があると思えます。

また、病院と同じだと思いますが、365日24時間学校は動き続けていますよね。小学校は一人のお子さんが卒業するまで6年間、中学校は3年間、先生方が責任を持ってずっと一人の生徒を見ているということで、まさにこれは先生方の義務というか仕事の一番大事な部分であると思えます。我々も、365日24時間いつも患者さんのことが気になります。先生方もまさにそうだと思います。その負担をどうやったら少なくすることができるか、メンタルの面も含めて、非常に考えさせられました。できることということになると、先ほどの事務的な作業を少しでも軽減するということになるのかなと思えます。

医療でも、医療クラークという人がいまして、医者に必ず一人、パソコンを打ったりする人が付くと、診療報酬で点数がもらえます。まさにそういう役割の人が、先生方を支える人が近くにいれば、もっと先生方が本来業務に専念できるのではないかと感じました。

○松浦市長

したがって、もっと学校の先生が「これはやらなくて良い」とか、そういう自己主張をしないと、我々は外から見ているだけなので、実態としてよく分からないところがあります。「こういうものはもうやめましょう」とか、むしろ中から主張してもらうようにしたらどうかと思えます。「そうした場合にはこれだけ負担が減るようになる」とか、そうしたものを作ってみて、それを教育委員会に言うとか、そういう行動を起こしていただく必要があるかもしれませんね。

○櫻井委員

これからは時間外勤務にしても、国から何時間までというのが出てくると思えます。医療でも2年後に結論が出ることになっています。30代の若い先生は月に80時間以上時間外勤務が当たり前になっています。それをどうやって国の定める働き方改革に近づけるかというのを私たちも一生懸命考えています。そういう時代にきていると思えます。

○松浦市長

ですから、先ほど教育長がおっしゃったように、英語の授業などがどんどん下りてくるわけですよね。それに対して学校の現場としてどう考えるのかということと言わないと、子どものために良いからといってどんどん取り入れると、では今の限られた時間の中でどう対応するのかという話を本当は議論しなければなりません。議論されないままに押し付けられるという状況があると思えます。やはり片方で、皆さん方の多忙感というものについて、多忙だということは分かりますが、「これはいらぬのではないか」ということを何らか意見交換をする必要があるのではないかと思えます。

○清水教育長

こういう言葉がよく使われ、県のレジュメにも載っていましたが、「勤務時間を縮小して子どもと向き合う時間を確保しなさい」というフレーズがありました。こんな矛盾したことは無いと思います。子どもと向き合う時間も勤務の一環です。そのために勤務時間を縮小するというのは矛盾で、「子どもと向き合わない時間を作り、勤務時間を縮小する」なら話は分かります。そういうフレーズが横行しています。

先ほど聖職者的なという言葉もありましたが、もう少し労働者的な立場でも良いと思います。私たちは週休二日制と言いますが、学校では学校五日制と言います。また、科目を「削減する」とは絶対言わず、精選や厳選と言います。もっとラフに労働者的な立場で考えないと、時間の短縮は絶対できないと思います。もう少し柔軟性を持って考えていただきたいと思います。教育委員会としても、言っていただければ、委員さん方も理解されていますので最大限のことはできると思います。

○伊藤委員

ある市町村の教育委員会が、夏休み期間を大幅に減らすというニュースが報じられました。英語科の導入がまず入ってきて、それから道徳が入ってきて、他の教科の時間数はどうなるかといったときに、ますます先生方は忙しくなります。子どもたちもギブアップします。

私は個人的に夏休みを減らすしかないと思います。先生方も校内でディスカッションしていただき、皆さんからボトムアップした意見を校長会等で教育長に話していただくとうまいと思います。市長が言われたように思い切ってできないことはできないと言うべきだ、という感想を持ちました。

○古藤副教育長

大体お時間が参りましたが、藤原委員さんはいかがでしたでしょうか。

○藤原委員

保護者として、先生方が多忙だということは新聞でもよく目にしますが、実際こうして秒刻み、分刻みで業務に当たっていらっしゃるということを聞きまして、やはり保護者対応などでも時間を使っているということで、なかなか先生方自身が「忙しいです」と言われることは無いかもしれませんが、私たちもそういうことをしっかり理解して、学校と付き合っていく必要があると感じました。

それから、先生方や外部の指導者の方には様々な部活動でお世話になっていまして、土日や放課後遅い時間まで熱い思いをもって子供たちに向き合っていておられます。そういったことに対して感謝の気持ちでいっぱいです。子どもたちもそこで学ばせていただくことが非常に多いのですので、部活動は非常に大切な活動だと思っています。しかし、そういったことに時間を取られすぎて、そのほかの業務やご自身の生活との兼ね合いのなかで体調を崩される先生々のお話を聞きますと、やはり子どもたちと接してくださる先生方が、心も体も健康でいらっしゃる事が子どもたちにとってもとても大切なことだと思いますので、先生方にとっても、子どもたちにとっても充実した部活動のあり方をしっか

り5と考えていかなければならないと感じました。

○多々納委員

時間がきていますが一点だけ。先ほど先生方のお話の中で、多忙を引き起こす要因の一つとして私は受け止めましたが、学力テストの採点が入っていたように思います。それは市の教育を上げていくために是非必要だと思いますので、多忙を起こす要因ではなく、先生方の指導をアップさせる非常に重要なツールとしてご理解いただきたいと思います。

○松浦市長

こんなことを言ったら怒られるかもしれませんが、なんとなく教員の世界を垣間見たような気がしました。私の父も教員でしたから、あの当時は宿直があったり、大変な時代だったと思いますが、そんなに忙しくて大変だという感じはなくて、今と何が違うのかよく分からないところはありますが、何となく先ほどもあったようにいろんなものをスクラップするのではなくどんどんくっつけながらきているため、やはり気が付いてみたら時間が足りなくなってきたということがあるのではないかと思います。したがって、ICTのようなものをもっと活用するとか、外部のいろいろな人の支援をもっと入れるとか、そういう形で時間を有効に、活用できるものについてはどんどんやっていくということが必要だと思いますので、そういう面をもっと先生の方から主張してもらおうと良いと思います。

今やっている中でもっとスクラップしても良いものがあるのではないかと思います。これは我々行政の世界でも非常に難しく、いつも予算要求の際にはスクラップアンドビルドと言いますが、結局、前の分に上乘せしてやってきて自縄自縛みたいになっているわけですが、そこはもう一度、本当にこれは効果があるのかということをよく考えて、スクラップしても良いものはスクラップしていくとか、もう少し真剣になって考えていかなければならないと思います。これは先生方だけの世界でやるとなかなか難しいと思いますので、我々も一緒になってやっていきたいと思います。これは「子どもたちのために」ということになると思いますので、是非これからは意思疎通をとっていきたいと思います。本日はありがとうございました。